

ハワイ大学臨床推論 WS に参加した成果

2025 年 3 月 17 日から 21 日までハワイ大学医学部にて臨床推論 WS に参加した。参加者は愛媛大学から 4 名、山梨大学、高知大学、久留米大学から各 2 名、東邦大学、日本医科大学、琉球大学、大阪医科薬科大学、佐賀大学から各 1 名の計 15 名が参加した。

・WS の概要

臨床推論：前立腺肥大症、慢性気管支炎、溶連菌感染症の患者さんについて、Fact、Hypothesis、Need to know に分けて PBL を行った。

医療面接：講義の後、日本人学生同士で練習し、翌日模擬患者さんをお招きしてテストを行った。2 回テストを行い、1 回目の患者さんの主訴は咳、2 回目の患者さんは胸痛だった。

Manikin Simulation：マネキンを用いて ER の想定で 3 回行った。みんなで助け合いながらまずは何をすべきか、どのようにしたら患者さんを救えるのかを考えた。臨床実習にまだ行っていないこともあり、これがもっとも難しく感じた。

シミュレーター（腹腔鏡・気管支鏡）：腹腔鏡や気管支鏡を初めて体験した。腹腔鏡は鉗子がまっすぐなものと曲がっているものがあった。気管支鏡のシミュレーターは実際に患者さんが咳をしている音まで聞こえた。

解剖：実際の心臓・腎臓（通常の腎臓と嚢胞のある腎臓）・肺をプラスチックに置き換えた模型を見て触った。

また、カリキュラムには入っていないが先生のご厚意で放課後に JABSOM の解剖実習室に入らせていただいた。JABSOM ではどのような学習環境があるのか学べた。日本よりも体制が整っている分、自分より学習量が多いのではないかと考え、これからはもっと気合を入れて勉強しなければならないと感じた。

・学んだこと・感じたこと

臨床推論：日本では BCG ワクチンを定期接種としているためツベルクリン反応で陰性であればサルコイドーシスなどを考えるが、アメリカでは一般的に BCG ワクチンを行っておらず、おおそがツベルクリン反応陰性であるため検査結果が陰性であってもそれ以外の所見から鑑別を挙げる必要性があった。日本で海外からの患者さんを診る際にもバックグラウンドを把握したうえで診断や治療を進める必要性があることを深く感じた。日本での PBL では単元がわかっている上じっくりと時間をかけて考えることができるため比較的容易に疾患を考えることができた。しかし、JABSOM で行った臨床推論では考える時間も短く、より実臨床に近い臨床推論を経験できた。また、英語で情報を共有しなければならない

ため、リスニング力やスピーキング力が向上した。

医療面接：医療面接において第一印象がとても大切で、それは2秒で決まることを教えていただいた。OSCE では患者さんを呼び入れる形だったがハワイでは医師側が患者さんのいる部屋にノックをして入った。ノックが弱弱しかったら自信のない印象、強いと怒っていたり焦っていたりする印象を与えてしまうため丁寧に行わなければならないと学んだ。英語で患者さんの言葉を完全に聞き取ることが難しかった。また、配慮や共感の言葉をかける際にも果たしてこの言葉のチョイスで正しいのだろうかなど不安があり難しく感じた。日本で OSCE を行ったときには質問のみだったが、ハワイでは身体診察まで行った。とてもよく肺の音や心臓の音が聴くことができ、学んだことを実際に使えたことに対して喜びや達成感を感じることができた。

Manikin Simulation：JABSOM のマネキンは足背動脈や膝窩動脈の脈拍を感じ取ったり、気胸により片肺のみが上下運動していることを見ることができた。患者さんの症状の原因を全身を俯瞰して見て考えることも重要であるが、何よりも目の前の患者さんを見て何が問題かを速く考えることが重要であり、PBL での経験が生きていた。皆それぞれ役割があるため責任が重く感じた一方で、患者さんを救うことができた時により達成感を得ることができた。

シミュレーター：初めて腹腔鏡や気管支鏡を実際に使った。私は手技に自信がなく内科しか考えていなかったが、腹腔鏡や気管支鏡のシミュレーターがとても楽しく、将来これらができる道に進みたいと考えるようになった。

解剖：解剖実習が終わってから3D の臓器を見ることがなく自己学習中に悩むこともあったが、実際に改めて見て頭の中がとてもすっきりした。

・交流

ウェルカムランチ：JABSOM の学生さんに学校を案内してもらった後一緒にランチを食べた。Specialty が決まっている学生さんが多く、私も将来についてもっと語れるようになりたいと思った。

フラダンス：アロハランチで披露するフラダンスを JABSOM の学生さんに教えていただいた。

レイ作り：ハワイでお祝いのときに作られるレイを、JABSOM の学生さんに教えていただきながら作った。最終日のアロハランチで首にかけてフラダンスを踊った。

アロハランチ：JABSOM の学生さんと一緒にランチを食べ、日本人学生でフラダンスを披露し、修了証やククイレイをいただいた。

・まとめ

今回の留学で、医療英語の知識や臨床推論の力をはじめ、患者さんの訴えを聞き取ったり救急の現場で複数の声が聞こえてもしっかり聞き取れるリスニング力、共感の言葉や声掛け、医療英語を用いてしっかりほかの医療従事者にも早く正確に伝えられるスピーキング力が足りていないと感じた。今回の留学で培った力を落とすことなく次の留学に向けて努力を重ねていこうと考えた。

また、留学への関心が参加前よりも高まった。参加前は日本国内でのみ医師として働きたいと考えていたが今回のプログラムに参加して、臨床実習を1カ月間海外で経験したり、海外で働くことも視野に入れて就職活動を行いたいと考えるようになった。

学習に関して、JABSOMの学生さんたちの勉強量が自分に比べて多く、皆さん将来進む診療科やその理由についてもしっかり語っており、自分も将来について深く考え、話せるようになりたいと思った。

ハワイでは日系の人も多く、考え方も似ているためとても過ごしやすかった。街もとても美しく穏やかで、食べ物も美味しく、ここで生活したいと考えた。JABSOMの学生さんや先生方、街の方々も皆さんずっと笑顔で優しくとても充実した日々を過ごすことができた。

最後に、今回の海外留学にご尽力してくださったすべての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

